

模写を活かした活動の考察

—— 小学生を対象とした造形ワークショップの実践を基に ——

The study of an activity through making use of the reproduction :

Based on plastic art workshops for elementary school students

山下 孝 治

YAMASHITA Takaharu

The exhibition took place at Meito Art Museum to commemorate the completion of the reproduction of 'Buddha's Nehan (nirvana) painting and 'Illustrated biography of Prince Shotoku, developed by the university's team. I considered the opportunity as contributing to emotional education of children, focusing on the theme of reproductive art through the workshop at the exhibition.

The workshop was for elementary school students. Completed piece were then organized for the above design workshop aimed at creating a wall scroll.

Japanese paintings have been passed on for over a thousand years till the present. Furthermore, while some classical pieces include interesting works. Writer sought to plan a program utilizing fresh materials and methods that are accessible to elementary students. This would allow them to experience the joy of learning to draw and create from the perspective of reproductive art and serve as part of children's emotional education to broaden their sensitivity toward art.

We will report on the details of our activities and discuss issues with the above points in mind.

はじめに

本稿では展覧会「一国宝模写の成果—応徳涅槃図と聖徳太子絵伝」でおこなった造形ワークショップ「模写をして簡単な軸に仕立てよう！！」の実践について述べるものである。

本学模写制作班によって手掛けられた高野山金剛峯寺蔵「仏涅槃図」および本證寺蔵「聖徳太子絵伝」の模写完成記念展が平成30年3月27日から5月13日の期間、名都美術館において開かれた。筆者はいずれの模写事業にも参加しており、この展覧会のワークショップのイベントを通して模写をテーマとし、子どもたちへの情操教育に寄与できるものはないかと考えた。

今回のワークショップでは、聖徳太子絵伝の中より子どもでも模写しやすいモチーフを選出し制作をする。完成した模写は簡単な掛軸に仕立てるという内容の造形ワークショップを考案し、「模写をして簡単な軸に仕立てよう！！」として小学生を対象に実践した。

日本画は時流によって変化しながら1000年以上ものあいだ脈々と現代まで受け継がれてきた。また、古典作品の中には現代の子どもたちにも共感できる面白い内容の作品は多いと考えられるが、学校教育の中では学ぶ機会は少なく、古臭く難しいという印象であろうと考える。そこで、小学生でも扱い易い新しい素材や技法を取り入れたプログラムにすれば、模写という観点からでも「えがくこと・つくること」の制作の楽しさを感じさせることができ、子どもたちの感性を広げる情操教育の一環として大いに活用できるものと考ええる。

以上のことを踏まえた実践活動について、その報告と検証をおこないたい。

1 模写事業の成果を活かす

1) 模写事業について

本学では、昭和49年から40年以上にわたり、初代教授である片岡球子先生の発案で模写の教育的意義を基盤においた模写事業を継続しておこなっている。これまで県委託事業として、法隆寺蔵「法隆寺金堂壁画」をはじめ、宮内庁蔵「高松塚古墳壁画」、神護寺蔵「釈迦如来像」、東寺蔵「両界曼荼羅図（金剛界及び胎藏界）」などの現状模写制作をおこなってきた。近年、平成26年から平成28年に制作した高野山金剛峯寺蔵「仏涅槃図」、安城市歴史博物館からの受託研究模写として平成22年から平成26年の5カ年をかけ制作した本證寺蔵「聖徳太子絵伝」も完成に至った。これまでに関係した寺院などは現在進行のものを含めると14カ所にのぼり、制作された図像は70点を超え定期的に成果物の展覧会も開催され、模写事業の意義は目に見える形で達せられてきている。

また、本学では平成26年に研究センター「文化財保存修復研究所」が立ち上がり、模写の教育的意義だけでなく中部地方における文化財の継承と再生、それに関わる人材の育成を目的とする拠点としての意義も具えることができ、本学の理念（ポリシー）のひとつでもある「教育・産業・生活文化など様々な分野で本学の持つ芸術資源を有効に活用し、地域社会と連携して、愛知県の芸術文化の発展に貢献することを目指す。」についての体制が整うにいったと言える。

2) 地域貢献の形

前述したように、継続した模写事業の成果の積み重ねと文化財保存修復研究所の設立により、成果物の展覧や地域における文化財の保存や修復による地域貢献が可能となってきた。だが、その活動の範囲はまだ限定的で地域への周知も行き届いておらず、本学の模写事業の活動に対する認識はまだ低いと思われる。特に学校教育の中では模写について学ぶ機会は少なく、子どもたちは模写という絵画形式さえ知らずその認識は極めて低い。また、知っていたとしても古臭く難しいものと理解されていると考えられる。

しかし、古典作品の中には現代の子どもたちにも共感できる面白い内容の作品も多い上に、模写制作の基盤となる日本画の技法には現代まで受け継がれてきた独特の技法や表現があり、模写の観点からでも「えがくこと・つくること」の楽しさを感じさせることができると考える。また、小学校図画工作科の目標のひとつ⁽¹⁾「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生

活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う」とも合致し、子どもたちの感性を広げる情操教育の一環として大いに活用できるものと考えた。その機会として、名都美術館にて開催される模写完成記念展「―国宝模写の成果―応徳涅槃図と聖徳太子絵伝」で模写を通した地域貢献として小学生を対象としたワークショップをおこなうことができないか検討した。

2 創作と生活を繋げるワークショップ

模写をテーマとしたワークショップをおこなうとしても、古画を模倣するだけではその行為だけで終わってしまう。今回のワークショップでは制作をしたものを生活の一部として活かすことで、子どもたちが楽しく豊かな生活を創造して、より感性を育む態度を養えるものにしたいと考えた。

本展覧会で展示される模写は裂⁽²⁾を施した軸装⁽³⁾になっている点に着想を得、子どもたちの模写を掛軸の形にできれば、日常の生活の中で飾り鑑賞することもでき、創作と生活が一体となることで、「えがくこと・つくること」の喜びをより感じるのではないかと考えた。

このことについて検討した内容を、この章で述べることにする。

1) 今回の模写について

本来、掛軸に仕立てる工程は複雑で難しく、いくら簡略化してもワークショップで設けられた2時間では時間が充分ではない。また、何より今回の模写作品の支持体として使われている絹は扱いも難しく、裂に使われている素材は高価で手に入り辛くワークショップで使用するには不向きである。そのため、模写の方法、基底材⁽⁴⁾と表装⁽⁵⁾の素材について検討し、簡易的に仕立てられる形式を考案しなければならなかった。

2) 模写の形式

ワークショップでおこなう模写の見本は「聖徳太子絵伝」の中から子どもが興味を持って制作できるものを数点部分的に選出しおこなうこととした〔図1・図2・図3〕。模写の形式としては従来模写事業でおこなっているような上げ写し⁽⁶⁾による模写は子どもには難しいと思われるため、基底材の横に見本を置き見ながら行う臨模⁽⁷⁾でおこなうものとした。

【聖徳太子絵伝より選出した見本（一部）】



図1 聖徳太子壮年期



図2 聖徳太子少年期

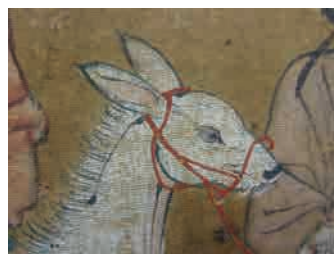


図3 駱駝

3) 素材について

基底材には模写でも良く使われる薄美濃紙⁽⁸⁾を使用するが、薄く扱いが難しいため予め厚手の和紙に貼り付けた。さらに、作業としてもっとも手間のかかる八双⁽⁹⁾と鰹⁽¹⁰⁾を予め取り付けて置き、参加者の作業工程を減らす工夫をした。

通常の表装において裂の選択は極めて重要な要素であり、図像に合わせ選択するという楽しさがある。しかし、先に述べたように、裂の使用は今回のワークショップでは不向きであるため裂に代わる素材を検討しなくてはならなかった。裂を使わない形として、裂の代わりに和紙でおこなう紙表具⁽¹¹⁾があるが、和紙の加工や糊づけなどの工程を考えると和紙の使用も難しかった。

近年、社会では空き箱などにマスキングテープを貼り、自らインテリアコーディネートを楽しむ人々の生活が注目されている。近年のマスキングテープは模様や色のバリエーションが豊富になり、見ているだけでも心躍るような楽しさがある。このような素材を多く揃えて使うことができれば子どもたちも楽しく扱いながら裂の選択をするというような楽しさを充分に感じられ、「えがくこと・つくること」の喜びを、より感じられるワークショップになるのではないかと考えた。

4) 作業の工程（作業工程の詳細については付録とする）

①美濃紙に模写をする

面相筆と墨を使用し、見本を見ながら線を描き写す。

②墨で線描きをしたものに彩色をする

見本を見ながら岩絵具を塗っていく。

③マスキングテープを貼る

自分の好きなマスキングテープを選んで貰い貼っていく。

④基底材をカットする

掛軸の寸法に合わせて両端をカットする。

⑤軸木を取り付ける

基底材に両面テープで軸木⁽¹²⁾を接着する。軸木の両端部分にマスキングテープを貼り、軸首⁽¹³⁾に見立てる。

⑥巻緒を取り付ける

掛緒⁽¹⁴⁾に巻緒⁽¹⁵⁾ 60cmを取り付ける。

⑦落款を押す

消しゴムで作った落款用の枠を画面に押し、その中に自分の名前の一文字を書き落款とする。巻緒を巻くことで仕立ての完成となる。

【完成した作品例】



図4 低学年作品



図5 低学年作品



図6 高学年作品



図7 高学年作品

5) アンケートの実施

今回はワークショップの成果を今後の活動に生かすためのアンケート調査をおこなった。

(アンケート回答数 参加17名中16名)

設問内容 ①今回の体験を通して感じたところに○を付けてください。

- ②どんなところが楽しかったですか？
- ③どんなところが難しかったですか？
- ④ご意見・ご感想があればお願いします。

【アンケート記入例】

本学美術館「模写を体験してみよう！-様々な模写に挑戦して-」

アンケート用紙

①今回の体験を通して感じたところに○を付けてください。

楽しかった 5 4 3 2 1 0 ふつう 1 2 3 4 5 楽しかった

②どんなところが楽しかったですか？

絵を書いたり、マスキングテープをはってかざりつけたところ。

③どんなところが難しかったですか？

色をぬるとき、えがかいたところ、短い時間で書けなくて。

④ご意見・ご感想があればお願いします。

短時間で描くのが大変だった。もっと広いところがあったらいい。

（記入欄が複数ある場合は複数回記入してください。このアンケートは匿名で集計されます。）

本学美術館「模写を体験してみよう！-様々な模写に挑戦して-」

アンケート用紙

①今回の体験を通して感じたところに○を付けてください。

楽しかった 5 4 3 2 1 0 ふつう 1 2 3 4 5 楽しかった

②どんなところが楽しかったですか？

絵を書きうつすところ。

③どんなところが難しかったですか？

色をぬるところ。

④ご意見・ご感想があればお願いします。

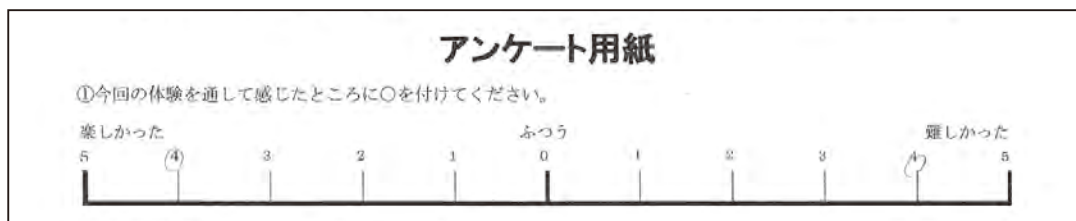
絵はむずかしかったです。

（記入欄が複数ある場合は複数回記入してください。このアンケートは匿名で集計されます。）

以下は、アンケートをまとめたものである。

1：設問①について

この設問については、設定したグラフの表記の曖昧さから設問②と設問③それぞれの評価が記入してあるものがあり、②と③の評価の判別ができないため集計不能と判断した。



2：設問②の回答（以下、アンケートに記入してあった文字は修正を加えず記載する）

- ・絵を書きうつすところ
- ・絵を書いたり、マスキングテープをはってかざりつけたところ
- ・模写
- ・えをかいたところがたのしかった
- ・絵をまねして描くと、一部が切れているようでおもしろかったです。
- ・楽しくない
- ・絵の色をぬるとき。
- ・絵をうつすところ
- ・えをかいたところ
- ・えをかくところ。

- ・自分で絵が書けたり、マスキングテープで自分流にできたところ。
- ・マスキングテープをはるところ
- ・テープをはったりするところ。
- ・マスキングテープをはるところ
- ・マスキングテープをはると所、色をぬる所
- ・絵を書きうつすところ

3：設問③の回答

- ・色をぬるところ
- ・だいたい形だけで絵を書くところ、短い時間で書くところ
- ・色ぬり
- ・えおかくところがむずかしかった
- ・筆の使い方が難しかったです。
- ・時間がない
- ・さいごのひもをむすぶとき。
- ・うつす絵をさいげんするところ
- ・マスキングテープをはるところ
- ・テープをはるところ。
- ・模写で色ぬりをするところ。
- ・じくぎをちゃんと真ん中にはるところ
- ・すみで書くところ。
- ・時間がなかった。
- ・黒い線を書く事
- ・色をぬるところ

4：設問④の回答

- ・絵をかいたりするのがとても楽しかった。もっと家でチャレンジしたい！！
- ・時間を長くしてほしい。
- ・けっこうかんたんにできて、すごいと思いました。
- ・たのしかった。
- ・もっとむずかしくしてほしい。
- ・また行きたい
- ・絵は、むずかしかったです。

3 ワークショップ実践の考察と分析

1) 導入について

ワークショップの工程の説明では、見本を写し岩絵具で彩色をするという内容は理解できたようだった。次に、マスキングテープを使用して表装をする工程の説明ではスムーズな理解が難しいようであったが、用意した参考作品を見せると一気に理解ができたようで、早く作業に取り掛かりたい様子であった。

2) 素材の選択について

今回のワークショップにおいて課題であった「小学生でも扱い易い新しい素材」として選んだマスキングテープは大変好評であった。幅が広いもの狭いもの、模様がシンプルなもの、可愛いもの、布素材のものなど多くのバリエーションを用意したが、どのテープを使うか目を輝かせながら非常に楽しんで作業をおこなう参加者の姿を見ることができた。

使い方は横に貼るばかりでなく、縦に使う、複雑に貼り合わせる、布のテープを合わせてみる、装飾的な工夫をする、カットした際に出た基底材の端を使い風帯⁽¹⁶⁾をつくるなど予想を超えた使い方や工夫が見られ、簡易的な表装に対するマスキングテープの使用の可能性を感じることができた。しかし、様々な種類を用意するために数か所の店舗で購入をした結果、100円均一の店舗で購入したものはテープの粘着力が弱く剥がれやすいことが分かった。以後はこれらの点に注意し購入を考えなければならない。

3) 創意工夫と改善点

今回のワークショップでは制作がスムーズに進むように八双や鑢などを予め取り付けたり、軸木の取り付けが簡単におこなえるように両面テープを貼り付けたりなど基底材に工夫をしておいた。その点については大変良かったと思われるが、後に軸木が太く重量があるために基底材の紙が引っ張られて破れかけていた。これは、基底材と軸木を2カ所のみ両面テープで接着していたためと思われ、この点については改善を考えなければならない。

もう一つ考えなければならないことは、白色として使用した胡粉である。今回使用した花胡粉⁽¹⁷⁾は巻き上げることを前提とした軸としては粒子が粗く厚塗りになり不向きであった。また、胡粉の特性として他の絵具と比べ塗ってすぐに発色しないために、塗れていることが分からず必要以上に胡粉を厚く塗ってしまう参加者が多く見られ、前述の理由と合わせて以後剥落の可能性を残すこととなった。今後は粒子の細かい胡粉を使用し、参加者に事前に胡粉の特性を説明して注意を促しておく必要がある。

4) アンケートの分析

アンケートの結果を見て、今回のワークショップの『模写の観点からでも「えがくこと・つくること」の楽しさを感じさせる』というねらいはおおむね達成できたと言える。アンケートは率直な意見を

書いてもらうことと個人情報の秘匿性のために氏名や年齢の記入欄は設定しなかった。しかし、その際に学年の記入欄も設定していなかったために、分析のための情報量が不足してしまったことが反省点として挙げられる。

参加した小学生の中には高学年・中学年・低学年と年齢に差があり、低学年では駱駝などの可愛い見本を選び、高学年になるほど複雑で難しい見本に挑もうとする傾向が見られた。その結果、スムーズに進む子どもと最初の墨線の写しに時間がかかってしまう子どもとで制作の進行速度に差が出ていた。これらの要因として、原本の選出の段階で難度のバリエーションをつくりすぎたことと、形を写すという作業に対して高学年になるほど強く拘りを持っていたということが挙げられ、事前の想定が不足であった。しかし、設問③の回答では写して描く事に対しての難しさを上げているものはあるが、模写自体につまらなさを感じているというものではなかったことから、模写をテーマとすることについてはこれからも継続しておこなうことができるものであると言える。

5) アンケートの中より

気になることは、設問②の回答の中に「楽しくない」と書いてあるものがあったことである。その子どもの制作をする姿を見ていたが、説明された制作の手順が理解できない、自分がイメージしたように筆を使うことができないなどがジレンマとなり機嫌を損ねており、11歳～13歳の高学年の時期に見られる擬写実期⁽¹⁸⁾の特徴を示していた。今回のワークショップでは、時間のかからないよう工夫をしていたものの、自分を含め3人体制での指導であったため、参加者17名に対する指導や声かけが行き届かず、フォローができていなかったのは確かである。

その上で考えることは、地域貢献としてワークショップを実践しただけでは模写を活かした活動としては片手落ちと言えることである。学校教育の中で図画工作や造形活動は他の教科と違い感性により生み出されるものが多く、子どもの精神性や生活環境などが及ぼす心理的な要素が表出する特異的な分野であると考えられる。そして、模写の制作もそのひとつである。制作の工程は見本を写し彩色をするという単純なものであるが、その制作過程の中で考えることは参加者それぞれ少しずつ異なる。指導者は子どもたちのその違いにいち早く目を向け、制作過程に滲み出た心理的な要素を汲み取り、抱えている問題に対して柔軟に対応する必要がある。そして、その場に応じた支援や声かけをおこなうことで子どもたちの制作に対する意欲を高め、その後の生活に於ける自信を培うことができれば、模写を活かした教育と地域貢献が達成できたと言える。

おわりに

模写を活かした地域貢献活動の実践としてワークショップをおこなった。制作している子どもたちの姿や完成した作品を見ても今回のワークショップの意義があったと言える。付き添いで参加した保護者も子どもの相談を受けながら一緒に楽しんでおり、完成した作品を早速自宅に飾ろうと共に喜んでいる様子から、創作と生活を繋げることができたと考えられる。

今回のワークショップでは複数の地域の小学生が参加しており、地域の垣根を越え互いの作品を

鑑賞し合うことなどもできた。また高学年から低学年までの異年齢の交流もあり、低学年は中学年を、中学年は高学年の姿から学び、関わり合いながら刺激を受け、それまでにはなかった感性を生み出している可能性を感じることができた。また、掛軸と言う形態は壁に掛け鑑賞することから普段の生活に対して、見本の模写作品や掛軸からその成り立ちの歴史的な背景、和紙や絵具に使われている素材から自然に対して興味を広げる事ができ、他の地域との関わり、異年齢との交流などとも合わせて、ワークショップの領域を越えた活動に対する意義を認めることができた。

さらに、異年齢との交流という観点から、ワークショップでは幼児の参加も考えることができる。しっかりと説明を聞く態度、材料や道具を譲り合う姿勢、それに対する言葉での意思表示、周りの子どもたちに合わせ行動しながらも自分なりの表現を楽しむ活動は、幼保⁽¹⁹⁾それぞれの教育において育みたい資質・能力の5領域⁽²⁰⁾にあてはまる事柄を多く内包し、幼児も対象としたワークショップへの展開にも広げることができる。そして、その中で更に小学生との交流ができれば幼保小の接続⁽²¹⁾を円滑に確かなものとする役割として大いに活用できると考える。

今後、この活動を継続するにあたり、全工程のタイムスケジュールと各工程を説明する資料を用意して参加者の時間配分や制作工程に対する不安を除く、原本の種類を減らし難度の差を少なくする、指導者を増やし指導と声かけの内容を厚くするなどの対応をし、初期写実期⁽²²⁾から擬写実期へ移行する段階においては適切な指導と声かけにより不得手意識を想起させない内容を考え、模写を活かした地域貢献活動で子どもたちの情操教育への貢献と幼児の参加も見据えたワークショップがおこなえるように活動していきたい。

<付録>

作業工程詳細

①美濃紙の大きさは縦 14cm×横 18cmにカットし、あらかじめ基底材に貼り付けて置く。面相筆と墨を使用し、見本を見ながら線を描き写す。[図 8]

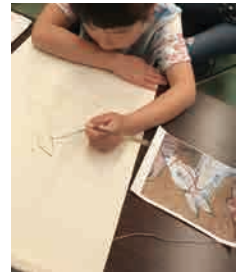


図 8 墨による線描

②岩絵具は準備に時間がかかるため、見本に多く使用されている色を数種選び、あらかじめ膠で溶き準備をした。見本を見ながら岩絵具を塗っていく。[図 9]

彩色後はドライヤーで乾燥させた。

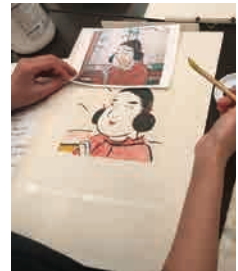


図 9 彩色仕上げ

③天地・柱・一文字⁽²³⁾の順に、自分の好きなマスキングテープを選んで貰い貼っていく。[図 10]

後で左右をカットするので少しオーバー気味に貼っていく。

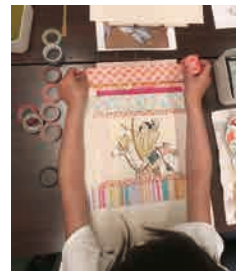


図 10 彩りを考える

④掛軸の寸法に合わせて、多めに貼ったマスキングテープと共に両端をカットすることで形が整う。[図 11]



図 11 両端をカットする

⑤基底材に両面テープで軸木を接着する。[図 12]

軸木の両端部分にマスキングテープを貼り、軸首に見立てる。[図 13]

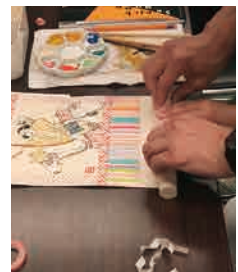


図 12 軸木を取り付ける

⑥ワークショップでは最も手間のかかる八双は予め製作しておくことにした。八双に鑑と掛緒も取り付けて置き、巻緒 60cmを取り付けられる状態にしておいた。

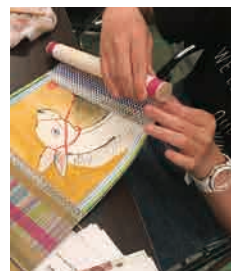


図 13 軸首に見立てる

⑦消しゴムでつくった落款用の枠を画面に押し、その中に自分の名前の一文字を書き落款とする。巻緒を巻くことで仕立ての完成となる。[図 14]



図 14 巻緒を巻いて完成

※準備した絵具 群青 10 番⁽²⁴⁾、緑青 10 番⁽²⁵⁾、朱⁽²⁶⁾ 黄土⁽²⁷⁾、
花胡粉

※準備物 岩絵具、彩色筆（大・中）、面相筆、筆洗、絵皿、菊皿、^{にかわ}膠、
膠匙、^{さじ}墨汁、カッター落款用消しゴム、定規、糊、カッティングシート、
バケツ

<図版>



薄美濃紙を貼った基底材



様々なマスキングテープ



菊皿に用意した岩絵具



お互いに相談をしながら

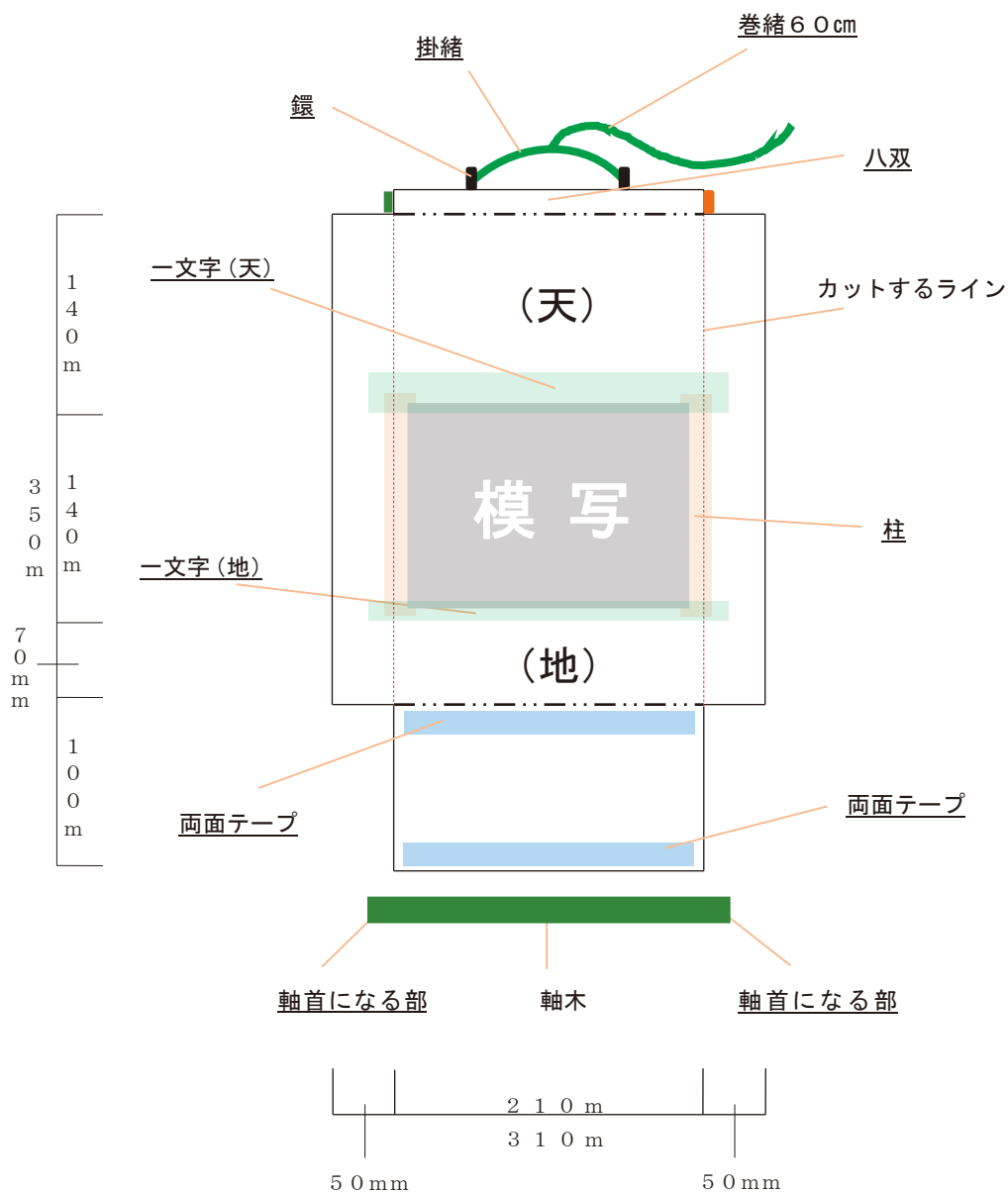


可愛い模様のテープ



ワークショップの様子

【各部名称】



参考文献

- 「安城市歴史博物館研究紀要 No.10・No.11 合併号」天野信治 安城市歴史博物館 精文堂印刷 2004 年
「日本画用語事典」東京藝術大学大学院 文化財保存学日本画研究室〔編〕東京美術 2007 年
「美術教育概論（改訂版）」日本文教出版 2016 年
「小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説 図画工作編」文部科学省 日本文教出版 2018 年
「幼稚園教育要項解説」文部科学省 フレーベル館 2018 年
「保育所保育指針解説」厚生労働省編 フレーベル館 2018 年
「造形表現」谷田貝公昭〔監修〕おかもとみわこ・石田敏和〔編著〕2018 年

註

- (1) 小学校指導要領では小学校教育の図画工作科の目標として、『表現及び鑑賞の活動として、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色など豊かにかかわる資質・能力を育成する』ことを目指し、掲げる目標を（１）・（２）・（３）とし、その（３）を「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。」としている。
- (2) 裂…織物、刺繍の断片を意味するが、転じて布帛全般を指す言葉として使われる。
- (3) 軸装…書画を表装して掛軸に仕立てることを言う。
- (4) 基底材…絵画を描く支持体のこと。日本画では絹・和紙・板などがそれにあたる。
- (5) 表装…書画の本紙を掛軸、帖などに仕立てることを言う。古くは表補衣とも言った。
- (6) 上げ写し…模写や修復などで用いられる技法の一つ。手本となる書画の上に薄い紙を乗せ、残像現象を利用しながら像を写し取る技法。
- (7) 臨模…臨写とも言い、手本となる原本を傍らに置き、観察しながら模写をすること。原本でしかわからない精神性や躍動感などを確認しながら写しとる。
- (8) 薄美濃紙…美濃紙の薄口のもの。格を原料としており透き通るほど薄い丈夫である。
- (9) 八双…掛軸の天の上端に付けられる。断面が半月状をしており、掛軸を平らに掛けるための重要な役割がある。
- (10) 環…掛緒を結び留めるための鉤。頭が環状になっていることから環と呼ばれる。頭の環に掛緒を通す。座金と共に八双に取り付ける。
- (11) 紙表具…書画の周囲に紙を配して掛軸に仕立てたもの。
- (12) 軸木…掛軸を巻くための芯となる棒。軸首と合わせて軸と言う。
- (13) 軸首…軸先とも言う。軸木の両端に付ける装飾。材質には金属、象牙、紫檀などがある。
- (14) 掛緒…環に結び留めた紐で掛軸を掛ける際に使用する。また掛軸を巻き納めた際には巻緒を止める役割がある。
- (15) 巻緒…掛軸を巻き留めるための紐。
- (16) 風帯…掛軸の八双から下げる垂れ飾り。一文字と同じ裂を用いたものを一文字風帯、中廻しと同じ裂を用いたものを中風帯と言う。
- (17) 花胡粉…貝殻胡粉の一種で、板用牡蠣の下蓋を多く用いたもの。精製が粗く粒子が不揃いである。
- (18) 擬写実期…「見えるよう実物のように描きたい」という欲求が芽生えてくる時期。客観的に評価ができるようになってきているので、「描きたいもの」と実際に「描いているもの」の差を感じ、思うように描けないことで焦りと自信の喪失とが重なり、次第に描こうとしなくなる傾向が出てくる。
- (19) 幼保…幼稚園は文部科学省、保育所は厚生省の管轄としている。また、内閣府・文部科学省・厚生労働省は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を公示し、教育と保育の要素を合わせ持った認定こども園の施策も打ち出している。
- (20) ５領域…幼稚園・保育所ともに幼児教育・保育所保育において育みたい資質・能力を捉え「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の５領域とした共通のねらいとして編成したもの。
- (21) 幼保小の接続…幼児教育・保育所保育を通して育まれる資質・能力が小学生以降の生活や学習の基盤になることから、幼稚園・保育所と小学校では「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共有し、教育の円滑な接続ができるよう努める働きかけをしている。
- (22) 初期写実期…子供達の中に「見たように描きたい」「見えるように描きたい」欲求が次第に生まれ、対象の特徴を捉えようと観察し表現しようとする姿が見られる時期。
- (23) 天地・柱・一文字…軸装の際に書画の周囲を構成する裂の名称。

- (24) ぐんじょう 群青…らんどうこう 藍銅鈷（アズライト）を精製して製造された岩絵具。
- (25) ろくじょう 緑青…くじやくいし 孔雀石（マラカイト）を精製して製造された岩絵具。
- (26) しゆ 朱…主成分を硫化水銀とする絵具で水銀と硫黄を人工的に合成して製造される。
- (27) 黄土…原料は天然の土。世界各地で採取され色調の幅が広い。

謝辞

今回の研究の実践活動をおこなうにあたり、実践の機会を賜りました名都美術館、跡部祐子氏、鬼頭美奈子氏、素材を提供頂きました本学講師脇屋助作氏には、多大なご協力賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

